

大学名	テーマ	事業名	活動主体	活動場所	活動目的・背景	取組概要	成果・今後の課題	関連Webサイト
1 京都大学	教育	地域学習資源の発掘・活性化をめざす取り組み	京都大学大学院教育学研究科、野殿童仙房生涯学習推進委員会	京都府相楽郡南山城村野殿・童仙房地域	廃校になった小学校を活用して、地域と大学の交流・連携によって生まれる、学校教育とは異なる新しいかたちの教育（学習）空間の創造を活動目標に掲げている。また、住民の生涯学習と大学による生涯教育の実践活動との融合をめざしている。	「野筆いなか塾」という、大人も子どもも参加できる地域学習講座を定期的に開講している。今年度は8月に「童仙房ミュージアム」を開催して、地域資源（地元産の丸太と山野草）を活用したアート制作（自然体験活動）と、高原生活をテーマにした博物館資料の公開展示を行った。また、2017年2月には、中山間地域の防災課題にアプローチする「防災懇話会」の開催を予定している。	地域と大学が協働して企画・運営する環境教育や防災学習のモデルケースを提示できていると考えている。参加者へのアンケート調査では「おもしろかった」「ためになった」などの回答が最も多いが、「もっと知りたい」や「またしてみたい」という回答も増加している。また、京都府外からの参加もあり、参加者の数は広がっている。	http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/collabo/
2 京都大学	保健・福祉・健康	地域に開かれた「こころ」の相談活動（カウンセリング・プレイセラピー）	京都大学大学院教育学研究科附属臨床教育実践研究センター 心理教育相談室		「心理教育相談室」では、社会に開かれた相談室として、さまざまなこころの悩み・症状をもつ方々のお力になるために、心理教育相談活動を行っています。当相談室は長い歴史と多くの活動実績を持ち、すでに広く市民の方々や他の教育機関・医療機関等にも定着しています。	ご自分のことやご家族のことなどについてのさまざまな悩みや症状を抱えて来談される方々に、カウンセリングやプレイセラピー（遊戯療法）を行い、一緒にそれぞれの問題を乗り越えていく道を探ります。教員の指導のもとに、基本的には大学院生が担当しています。	来談される方々がそれぞれの問題を乗り越えていく過程をサポートするべく、ここまで相談活動を積み重ねてきました。また当相談室は大学院生の訓練・教育機関でもあり、ここで訓練を受けた院生が他の場所でもこころの相談活動に携わることで、広く社会に対して貢献してきました。	http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/overview/facility/counseling_room
3 京都大学	国際化	Genius Table in Kyoto	Genius Table in Kyoto	主に京都市内の、京都の文化を感じられる寺社内や伝統工芸の工房など	本学COC事業「COCOLO域」における学生と地域との交流活動の一環として、COCOLO域および電通の支援のもと本学学生を主要メンバーとして学生団体Genius Table in Kyotoが設立された。海外からの観光客、とりわけ著名な人物が、京都は日本のことについて理解を深めるとともに、京都市民も国外からの視点を知り、地元地域を見直す機会となる知的交流の場を提供することを目的としている。	催している。この交流会の会場は、寺社や伝統工芸の工房など京都の文化を感じられる場所の協力を得ており、また食事は日本独特文化であるお弁当を用意している。ゲストとなる外国人観光客は、とくに自国で、あるいは世界的に活躍されている人物に来ていただき、参加者は京都市民および学生を募集している。	を提供するだけでなく、地域住民が自らを見つめなおし地域活性化のきっかけとするという点で多面的な効果を持つオリジナルティ溢れる活動である。活動する学生にとっても、京都の文化を知りその意義とともに課題を知るきっかけとなっており、また外国人の研究者や文化人と交流を深める教育的なメリットもある。	http://geniustable.com/
4 京都教育大学	環境・エネルギー、景観、美化活動	大岩山周辺（伏見区）での環境保全活動	LactPren（京都教育大学の学生団体）	大岩山周辺（伏見区）	京都教育大学の東に位置する大岩山は、以前から産業廃棄物やごみの不法投棄や竹林の荒廃が大きな問題となっていた。この山を「伏見の里山」として復活させて地域の人の憩いの場所にしたという目的で活動を始め、それを継続している。	平成20年から（LactPrenと命名されたのは平成22年から）不法に投棄されたゴミの回収、山頂展望台の建設と整備（雑木伐採や花壇の整備など）、道路の整備（新たな遊歩道の建設や竹柵設置）、荒廃竹林の整備、ため池の整備などの環境整備活動を進めている。	・大岩山の美観が回復し、遊歩道や山頂展望台の利用者が増えた。 ・地域住民、諸団体、行政との連携が進んだ。 ・ゴミの不法投棄や竹林の荒廃が後を絶たないため、今後も活動を続けていきたい。	
5 京都工芸繊維大学	産業・観光	グラフィックデザインの力で和東町の魅力をアピール	デザイン・建築学系 中野仁人教授研究室、阪田弘一准教授研究室	京都府和東町	和東町の茶畑の風景は、山城地域を代表する生業景観です。和東町では、景観計画・景観条例の策定を見据えた中長期的な計画、構想を目指しており、「茶楽郷 和東」をコンセプトに景観や文化財を活用したまちづくりを支援しています。	中野研究室では、デザインによるビジュアルな魅力発信に協力しています。地元の女性達が企画した地元産品のパッケージデザインや「和東茶・歴史・景観」をキーワードにして茶業を紹介した観光推進パンフレットを作成しました。阪田研究室では、住民意識の合意形成のため、アンケート調査やワークショップを行っています。	パンフレットの作成では、写真を大きく使って和東町の魅力をアピールしました。和東町の観光施設や京都市内の総合観光案内所等で配布され、好評を得ています。景観計画制定の支援では、生業景観である茶畑を維持するため、今後を支える子どもたちの意見も反映できるように様々なワークショップを重ねています。	http://www.coc.jp/report/1311/ http://www.coc.jp/report/829/ http://www.coc.jp/report/768/
6 京都工芸繊維大学	その他	3町合併後の公共施設を見直す	デザイン・建築学系 鈴木克彦教授研究室、角田暁治准教授研究室、高木真人教授研究室	京都府与謝野町	与謝野町は、2006年に加悦町、若滝町、野田川町の3町が合併して誕生しました。これからの時代にふさわしい公共施設のあり方を検討するにあたり、本学に依頼があり、新しい使い方を見据えた公共施設の見直しに協力しています。	研究室の専門により、機能によってグルーピングされた197の各施設を学生が一つひとつ調査しました。担当者にヒアリングし、施設の特性を考えながら、現状を分析しました。地元では気づきにくい町の魅力を発見したり、異なる部局で管理されている施設の連携を提案するなど、様々な課題に学生の視点が役立っています。	2015年9月に「与謝野町公共施設白書」ができあがりました。今後は、この資料をもとに住民の皆さんと公共施設のあり方を考えていきます。住民参加の仕組みを考えたワークショップを開催するなど、地道な活動が続きます。行政の枠にとらわれない学生ならではの発想を生かしながら、再投資計画に協力していきます。	http://www.coc.jp/report/2543/ http://www.coc.jp/report/2170/ http://www.coc.jp/report/1597/ http://www.coc.jp/report/1407/
7 京都工芸繊維大学	文化	若冲をテーマにしたアートイベントで錦市場を盛り上げる	デザイン・建築学系 中野仁人教授研究室、阪田弘一准教授研究室	京都市中京区	伊藤若冲が錦市場出身であることを、地元住民でさえも十分に知らないという状況でしたが、若冲をテーマにしたアートイベントを毎年秋に開催し、錦市場をアピールすることで、集客だけではなく地元住民の意識を高めることも目的の一つとしています。	中野研究室では、若冲の絵をもとにしたタペストリーを学生が描き、アーケード上部に十数メートルに及ぶインスタレーションを制作・設置しています。阪田研究室では、期間中に空き店舗を特設ブースとして改装し、中野研究室の学生がお店一軒一軒と相談しながら作成したオリジナルグッズ（てぬぐいなど）を販売しています。	2016年は若冲生誕300年にあたり、「若冲を知る」イベントを企画しています。空き店舗にブースを構えて、若冲の世界を気軽に楽しく知っていただけるようなパネル展示などを行います。にぎわいをつくり出すだけではなく、文化的価値を高めるように工夫しています。	http://www.coc.jp/report/1097/ http://www.coc.jp/report/613/
8 京都市立芸術大学	教育	カザラックコンサート	音楽学部学生有志によるオーケストラ、指揮専攻当教授、桂坂小学校PTAの連携	桂坂小学校（京都市西京区御陵大枝山町二丁目1-52）	公立大学として教育成果を社会に還元していくことは重要な使命であると考えており、小学校で小学生やPTAの方々と一緒に演奏するなど地域と連携し、音楽を通じた地域社会への貢献に努めている。	音楽学部学生有志が、小学生やPTAと共に演奏を行っている。また、平成20年頃からは、子ども達が音楽に、より親しみ楽しく勉強できるよう、演奏以外にも楽器の紹介や指揮者体験など、学生が自ら考え、活動を行っている。	地域の様々な年代の方々で幅広い交流ができたことにより、学生が音楽の楽しみ方の多様性を学ぶことができたことはもとより、普段はオーケストラと関わる機会が少ない小学生も、より音楽が親しみやすいものとなったと好評である。また、地域の特別支援学校や各種団体からの演奏依頼が増えたほか、本学美術学部への協力依頼など、公立大学として教育成果の社会還元や地域貢献等を行うことができ、本学全体に対して良い	
9 京都市立芸術大学	その他	「西京30景」及び「西京魅力探訪」作品展の開催	京都市立芸術大学 美術学部デザイン科 西京区役所、西京区役所洛西支所、西京区制40周年記念事業実行委員会	西京区内	本学のキャンパスが位置する西京区の地域の魅力を発信することにより、地域コミュニティの活性化を図ることを目的としている。	西京区制40周年事業として、区役所との協働のもと、本学美術学部デザイン科の学生が西京区の名所等を描いた風景画「西京30景」と、平成22年度から26年度にかけて地域の歴史や環境、人々のつながりについて地域にお住まいの方から聞き取り作成した手書きの壁新聞「西京魅力探訪」を展示する作品展を開催した。	学生が、大学の所在地である西京区に愛着を持つ機会を得ることができたと同時に、京都市内中心部のゼスト御池にて作品展を開催したことにより、西京区以外の方にも西京の魅力と本学学生の活躍を知っていただく機会となった。	西京区役所ホームページ http://www.city.kyoto.lg.jp/nisikyo/page/000206373.html
10 京都市立芸術大学	教育	京都市立境谷小学校レジデンス	本学教員、本学美術学部・研究科在学生及び卒業生、境谷小学校教員及び生徒	京都市立境谷小学校（京都市西京区大原野西境谷町三丁目5）	境谷小学校は、児童数が減少し300名に満たない小規模校であるが、これまでから食育や環境教育に取り組んでおられ、これらを芸術分野にも広げたいという希望を持っておられた。また、本学としても、小学生、大学生が共に学習できる持続可能な場を創造したいとの希望を持っていたことから、両校の目的が一致し、他では得られない持続（継続）可能な芸術活動の場として、小学校での作品制作を行っている。	平成23年から本学の卒業生や在学生が、京都市立境谷小学校の空き教室をアトリエにして芸術作品を制作し、日常的に児童・生徒と交流を行っている。また、定期的にアート体験ができるワークショップや児童と芸術作家が共同で作品展等も開催している。なお、作品展には、地域の文化サークルも参加するなど、地域連携も広がりをみせている。	小学校からは、①物の見方・捉え方、発想のユニークさや豊かさに出会える、②技術の高い指導を受けられる、③土曜学習塾等で多様な企画ができる等の評価をいただいている。大学としては、芸術家と社会がつながる良い機会になっていると考えている。	http://www.kcu.ac.jp/event/20160224_sakaidani/
11 京都府立大学	環境・エネルギー、景観、美化活動	絶滅危惧種の保全を通じた地域の活性化	細胞工学研究室	(1) 南山城村 (2) 綾部市奥上林	人間の活動に伴い、自然環境の保全がますます重要になってきている。環境省と各都道府県により、地域の絶滅危惧種の調査が行われ、レッドデータブックとして公開されている。京都府の絶滅危惧種サギソウおよびヒメザゼンソウの保全を目的に、群生地保護および復元、自生種の遺伝資源保護、教育やシンポジウムを通じた啓蒙活動を進めている。	(1) 南山城村に自生していたサギソウは、今では準絶滅危惧種に指定されている。わずかに残された村のサギソウの保全と、群生地復元による地域の新しい見所を創出しようとしている。 (2) 綾部市奥上林で、京都府のレッドブックに掲載されているヒメザゼンソウの群生地が見つかった。この群生地の保全と、ヒメザゼンソウの栽培化による遺伝資源保護の活動を進めている。	(1) 南山城村のサギソウ保全活動では、笠置中学校と木津高校、および京都府立大学の教育機関連携による取り組みに発展し、生徒の環境保全活動に役立っている。サギソウの系統、形態解析を進め、保全取り組みと広く共に関心することができた。 (2) ヒメザゼンソウ群生地の区画化と発生の調査、地元住民への周知ができ、今後引き続き保全と見所創出に向けて、地元住民と共に活動を進める。	研究室ホームページ http://www2.kpu.ac.jp/life_envirom/cell_genome_bio/Home.html
12 京都府立大学	産業・観光	京都丹波地域の地域資源発掘による魅力発信	京都丹波・写ガール隊（本学のゼミ生と京都府南丹波振興局職員、京都丹波地域の市町村職員等で構成）	京都丹波地域	平成25年に京都府南丹波振興局の呼びかけにより、京都丹波地域の魅力を発信するために結成。女性や若者の視点で魅力を再発見し、facebookなどを活用して、京都丹波の魅力をタイムリーに情報発信している。	京都丹波の魅力写真をfacebookで発信。また、1年を一つの単位とし、上半期は京丹波地域を知る意味も兼ねて取材（名称：勉強会ツアー）を行い、下半期には上半期で訪れたスポットを中心にツアー（名称：女子力アップツアー）を企画・実施している。その他に、地域から参加依頼を受けたイベントへの参加・PRを行った。メディア（新聞・CATV・ミニコミ誌等）に出演し、地域の魅力発信を行っている。	活動2年間で多くのメディアに取り上げられ、また、その活動が認められ、多くの賞を受賞しており、京都丹波地域や大学の発信に大きく寄与した。なお、課題としては、学生運営メンバーがゼミ生であるため、継続性の担保が懸念される点である。 【主な受賞歴】京都から発信する政策研究交流大会優秀賞（主催：大学コンソーシアム京都）、京都丹波観光プランコンテスト優秀賞（主催：京都府）等	※facebookのアドレス https://ja-jp.facebook.com/kyototambashagirl/ ※京都府ホームページ http://www.pref.kyoto.jp/nantan/kyototamba-svagr.html
13 京都府立大学	その他	「大学」と「府民・地域」を繋ぐ架け橋となる活動	京都府立大学地域連携センター学生部会「かごら」	京都市の北山エリアを中心に活動	京都府立大学の学生による地域連携を推進するために2013年4月に地域連携センターの学生部会として発足。具体的には、ボランティアを通して京都府立大学における在学生同士との関係を強化したり、卒業生や地域との連携・交流を進めていく。	○かごらカフェの開催（近隣住民と大学生の交流の場） ○北山地域で開催されるイベント（「北山あおいフェスティバル」「植物園イベント」等）への参加協力 ○北山イラストマップの作成 ○かごらタイムズ（広報誌）の発行による情報発信	これまで学生による地域連携については、一部のゼミやサークルの活動に留まり、全学的な活動を主導、コーディネートする団体が存在しなかった。「かごら」はその問題意識に応えるべく学生の自主性で立ち上がった団体であり、「かごらカフェ」を始めとする様々な活動により、大学と大学近隣地域との連携・交流がこれまで以上に図られてきた。	※facebookのアドレス https://ja-jp.facebook.com/kagora.kpu ※ブログのアドレス http://kpu.kagora.seesaa.net

大学名	テーマ	事業名	活動主体	活動場所	活動目的・背景	取組概要	成果・今後の課題	関連Webサイト
14 池坊短期大学	文化	祇園祭協賛イベント「花きらきら」	池坊学園	京都市下京区四條室町（池坊短期大学およびその周辺）	池坊短期大学は東西北に祇園祭の鉦を見渡すことができる「鉦ヶ辻」と呼ばれる四條室町に位置することから、祇園祭に協賛して花展を開催してきました。さらに1996年からは、より深く祇園祭に参加することを目的に協賛イベント「花きらきら」を毎年開催し、花展、茶会等を設けて学内を一般開放しています。	・鉦町の歴史や伝統を知ることが目的に学生の鉦上屏風見学を実施。 ・鶏鉦を学園でお預かりする縁から、鶏鉦の曳き初めに学生が浴衣を着姿で参加。 ・粽（ちまき）授与に学生がボランティア参加。 ・祇園祭（前祭）の宵宵山・宵山の2日間は学内を開放し、学生と教職員が協力して花展、茶会、クラブ、同好会発表会等に一般の	学生が、日本を代表する祇園祭の歴史や伝統を学びそれに参加することで、本学の教育理念である、いけばなを基軸とする「和と美」の精神を理解する一助になっています。またこのイベントを長年続けることで、地域住民の方と本学学生が触れ合う機会として定着しています。	http://www.ikenobo-c.ac.jp/event/2016/07/2016_3.html
15 池坊短期大学	文化	阪急烏丸駅構内のいけばな展示	池坊短期大学	阪急烏丸駅構内	日本固有の伝統文化のひとつであり、本学の建学の精神の基となる「いけばな」について、広く一般の方にも身近に感じていただくことを目的に、本学最寄り駅である阪急烏丸駅構内に本学学生が生けた作品を展示しています。	数日に1回の割合で、本学の学生（1名または2名）が交替でいけばな作品を制作し、阪急烏丸駅構内の特設ケースに展示しています。	日本固有の伝統文化でありながら、現代の若い世代や男性には比較的なじみの薄い「いけばな」に興味を持ってもらう契機としてだけでなく、忙しい日常生活の中でも作品を見ることで、華やかさや癒しを感じてもらうことができると考えています。	
16 大谷大学・大谷大学短期大学部	環境・エネルギー、景観、美化活動	京都屈指の伝統祭事 祇園祭にてごみゼロ大作戦に全学を挙げて参加	地域連携室/コミュ・ラボ	京都市中京区・下京区 四條烏丸一帯	千年以上続く世界的にも有名な京都の伝統的祭事である祇園祭。観光と伝統の両立の狭間で地域が背負う溢れるゴミ問題について、市民・NPO・行政・企業のパートナーシップで解決に取組む試みに従事しながら理解を深める。併せて、全学を挙げて参加することにより、「ごみゼロ」という大きな目的達成のための推進力として貢献する。	コアリーダー及び一般ボランティアとして参加し、ボランティアマネジメントをはじめ、エコステーションの運営などを担う	2015年・2016年といずれもボランティア全体の5%に及ぶ100名超の参加者が集まったことで、ごみゼロ大作戦の運営に大きく寄与したほか、学内での活動(大学祭)においてもユース食器を導入するなど、参加者自身のごみ削減に向けた取組みに広がりが見られた。	http://commulabo.otani.ac.jp/ https://www.facebook.com/otaniuniv.c/
17 大谷大学・大谷大学短期大学部	産業・観光	北大路エリアの魅力ある人・場所・ことを発信	文学部社会学科地域政策学コース	京都市北区烏丸北大路一帯	地域の中の魅力ある人や催し、事業などの情報を発信・発信することで、観光・移住促進や地域活性化に貢献する。	地域で活躍される方をゲストに迎えるラジオ番組(大谷大学ハッピーアワー)を毎週放送しているほか、地域のローカルニュースを取材し、WEBで発信する取組にも着手している	ラジオ出演をきっかけに、北大路界隈の皆さんとの交流が生まれ、継続しているほか、顕在化しづらかった地域の情報がコンテンツにより取り取りできる関係性を築けた。	http://commulabo.otani.ac.jp/ https://www.facebook.com/otaniuniv.c/
18 大谷大学・大谷大学短期大学部	教育	地域連携活動「おおたにキッズキャンパス」「谷大チャレンジスタディー」	教職支援センター		日ごろ、学校ボランティア・学校支援員・教育実習先などでお世話になっている園・学校ならびに幼児・児童・生徒に対して、学習活動の一助として学校や地域の意見を取り入れた形での学びの場を提供しています。会場は本学だけでなく、京都市・宇治市・枚方市・高槻市などへ「おでかけ隊」として足を運ぶ多くの子どもたちに学びの場を提供しています。また、北保健センターなどと共同開催することで地域との連携強化に努めています。	学内施設を使用して社会・音楽・理科・図工・体育・食育などの学習体験活動を行っています。毎回参加可能な年齢(学年)を決め、その対象者に対しての教育効果や指導目標などを大学生が相談して活動を設定します。学外でも行うことがあり「おでかけ隊」として、要望のあった自治体などで活動しています。	何回も足を運んでくれるお子さんや保護者の方も増え、「学校が休みの日に親子で学べる機会があってありがたい」「大学は入りにくい場所という印象であったが大谷大学を身近に感じる事ができた」などとお言葉をいただき、地域の方から本学に対して信頼や親近感をもっていただくことができました。公立学校や各自自治体との連携協力できる場が増えています。	http://www.otani.ac.jp/news/nab3mq0000400sh.html など
19 京都医療科学大学	安心安全(防災・防火・災害対策、交通安全)	南丹市における環境放射線測定等に関する調査・研究/南丹市総合防災訓練参加	京都医療科学大学 医療科学部 診療放射線技術学科	京都府南丹市	地域における環境放射線測定等に関する調査・研究を通じ学生に測定技術を習得させるとともに、自然環境における放射線量、放射線量の分布を調査し、南丹市の防災計画の基礎データとして利用する。また、測定において得たデータにより環境放射線マップを作成し南丹市総合防災訓練などの場においても展示し、市民に公開するとともに緊急モニタリング訓練や可搬型放射線測定装置を用いて測定の実演を行う。	放射線という特殊性に鑑み、本学の専門分野を活かし、一連の測定によって得られたデータを活用して、理解しやすい方法を以て、地元市民などに情報提供周知し、あるいは研究等の成果を地域防災等の強化の為に有効活用する。	自然界に存在する放射線を測定することにより、自然界にある放射線が身近な存在であるということが理解できる。また、総合防災訓練において将来活躍する医療現場での自身の姿を描くことができ、学んできた医療技術の専門的な観点から、医療現場で活躍される京都府放射線技師会の先輩方と共に、地域貢献の一環を担うことが出来ている。	http://www.kyoto-msc.jp/relation/detail.php?id=650
20 京都外国語大学・京都外国語短期大学	教育	English Summer School: 本学の教育的資源をいかした近隣児童たちへの支援	大学内組織と有志の学生	山ノ内小学校学区	English Summer School 小学校の英語必修化に伴います英語力が重要になってくる。そのような背景のもと外国語大学の強みをいかした日本人が特に苦手とする「英語の発音」に焦点を当てた講座を開講。	English Summer School 京都外大生が先生となり教材も学生自らが作成し、「英語」に親しんでもらいながら、基本的な発音をマスターしていく。最終日には父母の方に学んできた成果を参観してもらっている。	活動を通じて指導することの難しさを実感することはもちろんではあるが、参加学生も一緒に楽しみながら成長できたことである。また地域活動を盛んにすることで学生と地域児童や保護者との間で顔見知りの関係を築くことができ、そこからさらなる地域交流輪が広がっていき相互に良い効果が生まれている。	
21 京都外国語大学・京都外国語短期大学	教育	夏休みスポーツ教室: 近隣小学校児童とのスポーツを通じた交流	体育会系クラブ	山ノ内小学校学区	スポーツ教室 開かれた学校づくりの一環として、地域の子どもたちに本学の施設を利用して、体育会系クラブ所属の学生がスポーツを指導し、豊かなスポーツライフ実現への一端を担うことを目的とする。	夏休みスポーツ教室 体育会系の学生クラブ団体が主となり、「サッカー」「テニス」「バドミントン」「バレーボール」等のスポーツを数日にわたって各クラブ所属の学生が小学生に指導をおこないまた一緒にゲームをし、スポーツ体験を通してスポーツの楽しさを実感させる。	活動を通じて指導することの難しさを実感することはもちろんではあるが、参加学生も一緒に楽しみながら成長できたことである。また地域活動を盛んにすることで学生と地域児童や保護者との間で顔見知りの関係を築くことができ、そこからさらなる地域交流輪が広がっていき相互に良い効果が生まれている。	
22 京都学園大学	産業・観光	特産物を考える会による地域特産物の創生	バイオ環境学部 食農学科 農業生産学研究室	本学のキャンパスを中心とした亀岡市域	最高峰の土、水、環境条件を備え、京野菜の里として高級野菜を供給してきた亀岡市であるが、農業従事者の高齢化が進み、産業としての農業が危機に直面している。	本学で、他には無い京野菜を開発するとともに、地元農家に特産物を考える会という、農業生産者の協力組織の結成を導いた。これにより、一気に特産物として市場に出回らせることが出来る。さらに、年に数回の勉強会を開催することによって、全体的な栽培技術の向上と、品質保全を可能にしている。また、学生が実際の農業を体験する機会にも繋がる。	産業振興と学生の社会体験の場の提供という意味があった。この活動によって、地元農家が元気になるとともに、大学が地元存在する意義を感じていただけるようになった。	http://www.kyotogakuen.ac.jp/info/31502.html http://www.kyotogakuen.ac.jp/study/36097.html
23 京都華頂大学・華頂短期大学	その他	地域活性化学生プロジェクト	京都華頂大学・華頂短期大学 地域発展活性化センター・学生参画運営センター	京都府内	2014年に、当時地域連携活動に参加しているクラブや学生グループなどが穏やかなつながりを持ちながら、情報交換や交流、広報活動に協働して取り組むことを目的に結成しました。結成を契機に、他大学の地域貢献活動グループとの交流を図るなど、活動の幅も広がり、自分たちの活動の位置付けなども確認できるようになりました。	浄土宗の社会福祉推進活動と連携し、宗門校の社会連携活動の報告・交流会に参加しています。この報告会への参加のため、プロジェクト構成団体の代表者が集まり、色々な意見交換をすることで、互いの活動内容を理解し、大学としての社会貢献活動のあり方を見直す絶好の機会になっています。また、2015年から「ネットワークニュース」の発行を開始しました。	現在プロジェクトには6つのグループが参加していますが、地域貢献や地域活性化をキーワードに集まり、学生会や大学事務局の支援をいただきながら連携を図ることで、自分達の活動を客観的に評価することができ、社会貢献活動を自己満足に終わらせることなく、互いの成長につながるような活動にするための方法などについても考えるようになりました。	
24 京都華頂大学・華頂短期大学	保健・福祉・健康	学生の学びを地域で生かす取組	華頂短期大学 介護学科	京都市東山区	・様々な地域課題に対して大学の知恵を活用し、コミュニティの中核的存在として地域の変化と発展に寄与する。 ・「介護」について様々な角度から学んだ学生が、習得した知識や技術を地域活動を通じて実践することで、新たな気づきやコミュニケーション能力の向上を図る。	華頂短期大学介護学科の1・2回生の学生が、数年前から教員と協働してゼミの時間などを利用して様々な地域連携活動を実施しています。 ①華頂サロン・・・大学の近くにある古川町商店街の空き店舗を活用し、地域の方々のコミュニケーションやハンドマッサージを実践 ②古川町商店街門掃き隊・・・ゼミで交代しながら商店街を定期的に清掃	各活動への学生の参加の動機は様々だったが、大学の授業の場から離れて仲間や友人、大学の教職員と一体となって催しに参加したことで、一人ひとりが何らかの変化や学びを実感できた。「地域への貢献」と「私たち学生の学び」を同時に達成でき、有意義であった。	
25 京都華頂大学・華頂短期大学	教育	子供たちと学生との長期的な交流事業	京都華頂大学・華頂短期大学 学生参画運営センター	京都府宮津市	宮津市内で地域の子供活動に取り組むクラブや公民館から、「長期的に交流できるボランティア学生を探している」という情報が本学教員を通じて入ったため、地域の方々と相談しながら、「学生と遊んで楽しかった」というだけでなく、子供たちが「新しく知ること、学ぶことが楽しい」と実感できるような交流を実践しています。	夏休み、冬休み、春休みをメインに、宮津市の吉津地区、養老地区を訪問し、人間知恵の輪やシャボン玉づくり、門松作りなどを子供たちと一緒に楽しんでいます。門松作りでは、「なぜ門松を飾るのか」や「おせち料理の意味」などについて学生が紙芝居を作って発表したり、交流後には、一人ひとりに手紙と写真を送って次回交流につながるようになっています。	参加している学生の多くが、将来は小学校や幼稚園の先生を目指しており、交流を通じて子供たちの様々な側面を直接感じることができるとともに、地域の方々が子供たちの成長を見守り、支援することの大切さを学ぶことができる大変貴重な機会になっています。こうした交流を長く続けながら、多様な子育て、教育のあり方を学んでいきたいと考えています。	

	大学名	テーマ	事業名	活動主体	活動場所	活動目的・背景	取組概要	成果・今後の課題	関連Webサイト
26	京都光華女子大学・ 京都光華女子大学短期大学部	環境・ エネルギー、 景観、 美化活動。	鹿肉大作戦～地域とつながるお いし活動～	ライフデザイン学科 京しかミーツ	京都市右京区	右京区京北町で鹿による森林や農作物への被害が深刻化していることを知り、右京区の鹿被害対策プロジェクト「もみじプロジェクト」に賛同。捕獲された鹿の有効活用、鹿肉の普及を目指すとともに、鹿被害の背景にある環境問題や自然と動物との共生についても関心をもってもらえるよう活動している。	月1回の勉強会を実施し、環境問題への理解を深めるとともに、鹿肉を使った料理のレシピの開発、試作を行っている。また、一般の方に鹿被害の実態と鹿肉を食べる理由を伝え、鹿肉のおいしさや鹿肉の活用方法を知ってもらうため、試食会や地域イベントでの鹿肉料理の提供を行っている。	地域の方に喜んでもらえることやりがいを感じ、協働する意義を感じた。もっと鹿肉料理や環境について勉強し、たくさんの方に伝えたいという意欲がわいた。鹿肉料理を味わってもらうことで鹿肉のイメージもよくなり、環境問題にも興味をもってもらった。	
27	京都光華女子大学・ 京都光華女子大学短期大学部	その他	京都三条会商店街寺子屋事業	光華三条ガールズ	京都市中京区	京都三条会商店街にて短期大学部こども保育学科が行ってきた、子育て支援事業をキャリア形成学科の学生を中心としたグループが引継ぎ、参加対象者をファミリー層に拡大した「寺子屋事業」を2012年に開始。イベントの企画や実施を通し、地域との繋がりを深め、商店街の更なる活性化を目指している。	京都三条会商店街の貸しスペースを拠点に、商店街を盛り上げるためのイベントや季節に合わせたイベントを企画・実施している。毎年好評を得ているハロウィンの仮装やクリスマスリース作り、勉強会などを実施し、子どもにとっては遊び場や学び場として、地域の方々にとってはコミュニティの場の一つとなる交流の場となるよう活動している。	活動を続けるなかで、地域の人や商店街の方に声をかけていただく機会も増えた。商店街と地元企業の協賛イベントに参加させていただいたことで、多くの方々に活動を周知できた。大学内だけでは経験できない地域の方や企業の方との交流、連携の方法などを学ぶことができた。	

大学名	テーマ	事業名	活動主体	活動場所	活動目的・背景	取組概要	成果・今後の課題	関連Webサイト
28 京都嵯峨芸術大学・ 京都嵯峨芸術大学短期大学部	文化	サガノミノイチ ーサガフリーマーケットー (大学を会場にしたアート・フリーマーケット企画)	京都嵯峨芸術大学フリア実行委員会 (学生有志によるメンバー構成)	大学近隣エリアを中心とした右京区全体	学内フリーマーケットにおいて、学生だけでなく学外の出店者、来場者を募ることで、本学と地域との交流を図ることを目的としている。また、学生と近隣住民の方々が直接関わりを持ち、刺激を与え合うことで、学生の創作意欲と積極性の向上を促す。さらに、子供も楽しめるイベントや、学外者との共同イベントを企画することにより、本学が誰でも気軽に寄れる開けた場所となるよう、これまで以上の規模にしていくことを目指している。清水寺や祇園など、年間を通して国内外から多くの観光客が訪れる京都市東山区で、障がいの有無や年齢、言語の違いなどに関わらず、誰もが安心、安全、快適に観光を楽しんでいただける「ユニバーサルツーリズム」のまち・東山の実現を目指し、東山区との協働プロジェクト「京都・東山観光おもてなし隊」を設立。観光客等に対して親切できめ細かいサービスを提供するお店や施設等で作るコミュニティを結成し、様々な形でサポートに取り	・広報物の制作(運営スタッフの募集ポスター、出店者と来場者の募集フライヤー、場内マップ) ・広報(フリーマーケット情報登録サイトやツイッターを利用した情報の提供、学内にポスターを設置、フライヤーのポスティング) ・企画運営(出店申し込み対応、学外者との共同イベントを企画する)	イベント全体としては、近隣住民との関係が深まり、大学の存在を広い世代の方々に知っていただける機会となった。また、実行委員会の学生それぞれに自主性や行動力が芽生え、課外活動としての十分な効果と意味があった。手作り品のみを販売する「てづくり市」の開催も実現し、今後はより一層、芸術系大学である持ち味を生かしたフリーマーケットを運営したい。	http://sac.kyoto-saga.ac.jp/?page_id=34
29 京都産業大学	産業・観光	京都・東山観光おもてなし隊	京都産業大学 経営学部 松高 政ゼミ	京都市東山区	東山区の高齢化に伴い、すぐには処分できない「空き家」となる家屋が増加傾向にある。「空き家」は、老朽化が早く進むことから、放置しておく町や防犯上の問題が生じる。以上の背景をもとに、空き家の維持管理が難しい所有者にわかり、簡単な点検を行う空き家見守りの活動を自治体と協議しながら実施している。	店舗の外国語対応、哺乳瓶の温めなどの「おもてなし」対応についてホームページで紹介している。また、東山の観光地を実際に車いすで回り「東山車いす観光散策マップ」を制作したほか、食物アレルギーの方にも安心して食事を楽しめるお店を紹介する冊子「にっこり東山」の製作や、食物アレルギー対応のメニューの開発などの活動を行っている。	地域・行政・大学ぐるみでユニバーサルツーリズムをめざす取組が評価され、平成26年には、「国土交通省近畿運輸局バリアフリー化推進功労者表彰」および「京都市みやこユニバーサルデザイン大賞」を受賞した。	【ホームページ】 http://higashiyama-kanko.jp/community/ 【Twitter】 https://twitter.com/omotenaitai
30 京都産業大学	産業・観光	「井手町イノベーション・チャレンジ事業」井手町応援隊	京都産業大学 経営学部 大西辰彦ゼミ	京都府綴喜郡井手町	井手町と京都産業大学相互の人的、物的、知的資源を活用し、地域社会の発展と人材の育成を図ることを目的とした地域包括協定に基づき、井手町における交流人口・定住人口の増加を目指し活動。井手町において「イノベーション・チャレンジ事業」として予算化されており、学生の取り組みが地域政策の一端を担っている。	地域の子どもたちが作った紙バックの燈籠や竹で作った燈籠を町の中心部に流れる「玉川」に設置する「井手みねーしょん」や、町内の飲食店をまわるスタンプラリー「ハラベコランド」など、地域とともに町の魅力を広めるさまざまなイベントを企画・運営しているほか、民泊体験などを企画している。	町からは学生らしい発想や自由なアイデアで地域を盛り上げてほしいという町と、地域活性化に興味を持つ学生がともに活動することにより、自治体や企業、住民など多くの人を巻き込みながら地域活性化に取り組むことで、学生の成長と地域振興の相乗効果を生んでいる。	
31 京都女子大学	環境・エネルギー、景観、美化活動	空き家プロジェクト(空き家見守りボランティア)	家政学部生活造形学科	京都市東山区	東山区の高齢化に伴い、すぐには処分できない「空き家」となる家屋が増加傾向にある。「空き家」は、老朽化が早く進むことから、放置しておく町や防犯上の問題が生じる。以上の背景をもとに、空き家の維持管理が難しい所有者にわかり、簡単な点検を行う空き家見守りの活動を自治体と協議しながら実施している。	所有する空き家の点検が困難な空き家所有者に代わって、学生たちが定期的に建物の簡単な点検(雨漏りによるシミの有無・水を流して錆の付着を調べる等)や通風(全室の窓や押入れを開け、通風・換気を行う)を行う。	制度ができるまで、地域をはじめ行政や専門家等大勢の関係者が関わっており、そのため、無料で提供できるサービスとなっている。ただし、2012年より「空き家見守り」申込を受け付けているが、実際に申し込みがあったのは、2015年度3件のみである。(実質的に2016年1月末からの活動となる)	京都女子大学地域連携研究センターH.P. http://www.kyoto-wu.ac.jp/daigaku/shisetsu/chiiki/news/ind.html
32 京都精華大学	文化	京北宇津ふれあい学びあい	京都精華大学 京北宇津 宝さがし会	京北宇津地域(京都市右京区)	初代学長の生誕地でもある宇津地域の住民からの高齢化・過疎化に対する不安の声に対し、教員が地域固有の農村の風景や生活様式、文化に象徴される地域のアイデンティティや文化資源を継承する意義を強く感じたため開始したプロジェクト。	地元の北山杉産業や宇津地域の自然環境に関するヒアリング調査のほか、伝統料理の講習会や昔から伝わる餅つき大会、伝統食や地元の木工品製作に関するワークショップ等を開催。他にも廃校となる小学校における資料のアーカイブ化や、地域のマップ作りを計画中。	ワークショップやイベントなどでの働きかけによって、学生を中心に幅広い世代の地域住民同士の交流が生まれた。今年で3年目となるが、徐々に活動範囲も多様なものとなり、学生と地域の方々の親交も深まっている。	京都精華大学 京北宇津 宝さがし会 http://seika-keihoku.com/
33 京都聖母女学院短期大学	教育	夏休み子どもお料理教室	本学生活科学科食物栄養専攻	開催場所 本学調理室	地域の子供たちに料理の楽しさを教える機会を提供するとともに学生にとっては子供たちに料理指導する機会でもある。	地域の幼稚園から小学校低学年の児童を公募して本学に引き、本学学生の指導の下、課題の料理を作って試食する。		http://www.seibo.ac.jp/news/index.php?c=news_view&pk=1472111071
34 京都聖母女学院短期大学	教育	聖母子どもフェスティバル2017	本学児童教育学科	開催場所 本学講堂兼体育館	地域の子供たちと触れ合いつつ、音楽劇やゲーム、工作体験等の遊びのブースを開放し、本学での教育の成果を発表する機会でもある。	地域の子供たちに参加を呼びかけ、音楽劇やゲームを行い、工作体験等のブースも企画するとともに、卒業作品展も同時に行い、本学の学生の取り組みを見ていただく機会となっている。		本年2月5日(日)開催予定。HPへのアップは開催後を予定。
35 京都造形芸術大学	その他	まか通-近代産業遺産アート再生プロジェクト-	まか通-近代産業遺産アート再生プロジェクト(京都造形芸術大学 多学科学・多学年による公募)型プロジェクト	京都市東山区六原地域を中心とした東山区エリア	東山区六原学区を中心にまかに残された独自の文化・伝承・伝説を、アートの力でより多くの人々に知ってもらおうと2004年から活動しています。昔から住んでいた方や、新しく越してきた方々が、このまちの文化や歴史資源に誇りを持つように、また忘れ去られることのないように自分たちのまちを愛せるようなきっかけ(ことおこし)を目的として活動しています。	陶器人形、地獄絵解きなどの歴史資源を発見し、アートの力で再生してきました。またイベントやフィールドワーク調査などを通して、新たな観光資源の開発と、地域復興を目指し、まち独自の資源を使った新たな産業を生み出しまちに還元していくことを今年度からの目的としています。毎年の活動報告として冊子『あなたのまちの愛し方』などを作成・発信しています。	まちにある歴史資源・文化の重要性や面白さを伝えられるコンテンツを提供してきました。例えば陶器人形を子どもたちとつくるワークショップでは、楽しめたという声を多く聞け、祖母・母親の世代から、若い世代にまちの文化を知ってもらい、浸透させる一歩になりました。住民ではない立場だからこそ持てる発想や着眼点もあり、そのことが新たな産業の可能性を秘めていると実感できました。	http://maka2log.blog43.fc2.com/
36 京都橋大学	産業・観光	山科のまちづくりを行う団体が協同して活性化に取り組む活動ーやましな駅前陶灯路(とうとうろ)ー	主体は、やましな駅前陶灯路実行委員会。本学としては、地域連携センター、現代ビジネス学部が協力。	京都府京都市山科区、JR山科駅周辺	山科区は、商店街や伝統産業の生産団地、神社仏閣が混在しており、多くの地域資源に恵まれています。そのひとつである清水焼を用いて、山科のまちづくりを行う団体が灯りイベント「陶灯路」を行い、山科の魅力を発信しています。	京都山科清水焼団地で生産されている陶器を使用し、その器の中に水・切子グラス・ロウソクを順番に入れます(=陶灯器(とうとうき)といいます)。そして、中のロウソクに火を付け、路のように並べることで、心安らぐ幻想的な空間を演出しています。	山科固有の伝統産業である清水焼などを用いることで、地域のイメージアップや地域資源を再確認する場となっています。また、本学の学生が運営スタッフとして地域の方々と連携することで、実践を通じた学びの場となっています。	おこしやすやましな協議会 http://www.okoshiyasu-yamashina.org/ekimaetoutou26.htm 京ごよみ http://www.kyokanko.or.jp/kyogoyomi/10october/event-10october/21278
37 京都橋大学	保健・福祉・健康	団地の活性化を目指した取組	地域連携センター	醍醐中山団地(京都市伏見区)	地域関係の希薄化や団地の空き住居が問題となっている中で、学生と留学生がルームシェア形式で居住することにより、住民として団地の活動に参加するとともに、大学が団地内に地域も連携する拠点となる「地域連携センター」の分室を設置・運営し、高齢者や子育て世帯の支援等を行うことで、団地が活性化することを目的として活動しています。	筋トレ・脳トレイベント、地域住民に対する健康相談、シェアルーム居住の留学生が中心となり出身国や出身地域の紹介をする交流会、団地居住の高齢者を対象に学生によるクイズや寸劇およびお点前等を提供する敬老の日のお楽しみ会等のイベントを開催するほか、団地子ども会や防災イベントへの参加等を行っています。	学生主体の企画を団地自治会の協力により行うことにより、学生の表現能力やリーダーシップ力、社会人としての責任感などが向上しています。また、団地内で今までと違うイベントが増えたことにより今まで活動に参加しなかった住民も参加する機会が出てくるなど、地域の活性化の効果が出つつあります。	京都橋大学 地域連携推進機構・地域連携センターFacebookページ https://www.facebook.com/1551267731820499/
38 京都橋大学	保健・福祉・健康	たちばな健やかクラブ	京都橋大学看護学部の教員および学生ボランティア	大学がある山科区内が活動エリアです。大学内の拠点スペース(現在整備中)および、山科区内の2か所のフリースペース(清水焼団地センター「みちくさの家」、山科区総合福祉会館2階)で活動し	本学看護学部の特徴は、地域住民との共生を教育基盤としていることです。その特徴を生かし、本学が位置している山科区を中心とした地域に暮らす様々な健康レベルの人を対象とした健康増進活動の展開を実施することとなりました。具体的には、大学内に拠点となるコミュニティ空間「たちばな健やかクラブ」を開設し、大学内、大学外での健康増進活動を実施していく予定です。	現在、大学内の拠点整備中であるため、主に、学外でのアウトリーチ活動を展開しています。「出張 たちばな健やかクラブ」として、山科区内の2か所のフリースペースで定期的に活動しています。身体計測、骨密度測定、血管年齢測定、脳年齢測定等の測定と健康相談等実施し、地域住民のニーズ把握や活動の周知を図っているところです。	これまで5回のアウトリーチ活動を実施しました。アンケート結果より、参加者は60-70代の女性が8割強を占めること、活動場所の近所(徒歩等で20分以内)の方が7割強でした。参加者と直接関わることで、自分の健康状態について、身近なところで気軽に見直す機会を求めていることがわかりました。また、参加者は高齢者が多いことから、骨密度、血管年齢等の関心が高かったです。	
39 京都ノートルダム女子大学	教育	ノートルダム遊びプロジェクト「自然と遊ぼう！」ー親と子のための自然体験・造形活動プログラムー	京都ノートルダム女子大学 心理学部・心理学研究科、心理臨床センター	京都市内	乳幼児から小学低学年の子どもとその家族を対象にした子育て支援事業である。学生が自然をテーマに企画した観察・造形・実験を交えた遊びを通して、子どものみならず大人にとっても好奇心や創造力を育む場となり、活発な交流の場になることを目的としている。	春と秋の年2回、京都御苑の森や大学構内を会場にして、草木や動物の自然観察、落ち葉やどんぐりなど自然物を用いた造形やゲーム、顕微鏡での観察、風・光を体験する工作遊びや実験などを行っている。子どもだけでなく、大人も楽しめるプログラムで、学生がプログラムを企画・準備し、当日は参加者をサポートする。	子どもへの自然体験教育というだけでなく、大人も子ども目線遊び、親子がゆっくり楽しく関わる機会であり、リピーターも多く好評である。学生は企画力や社会性を習得しつつ、子どもの発達を学ぶチャンスとなっている。通算回数も20近くになっているので、「自然」をより多様に捉えて、新しい面白さを発信できるようなプログラムの工夫をしていきたい。	https://www.notredame.ac.jp/cooperation/meeting/pdf/shizen20160512.pdf
40 京都美術工芸大学	産業・観光	園部のれんの街プロジェクト	伝統工芸学科 総合デザイン専攻	南丹市園部町	地域を活性化したいという店主の方々の呼びかけに応え、商店街を内から盛り上げる施策として各店にオリジナルデザインののれんを掲げるプロジェクトです。	のれんには、日除けや目隠しの役割だけでなく、営業の目印としての役割があるため、学生たちはそれぞれのお店の特長を出すためにどんなデザインがよいのか、店主と何度も打合せを重ね、デザインをまとめあげました。	クライアントとの対話を通して一つ価値を生み出していき、教室の中では決して学べないプロのデザインを体験しました。	http://www.kyobi.ac.jp/subject/total_design_study.html

	大学名	テーマ	事業名	活動主体	活動場所	活動目的・背景	取組概要	成果・今後の課題	関連Webサイト
41	京都美術工芸大学	産業・観光	亀岡祭「ひかる」まちなみプロジェクト	伝統工芸学科 総合デザイン専攻	亀岡市	京都府亀岡市で毎年10月に行われる亀岡祭で使用される各鉾町を象徴したオリジナルあんどんを制作しました。	3つの鉾町の皆さんとミーティングを重ね、どのような地域の特長を打ち出していくべきか、形のデザイン、絵柄のデザインはどうするかという方針を打合せ、一丸となって地域を盛り上げました。	あんどんづくりをお手伝いすることが、地域の文化を深く知るきっかけとなり、また地域の人たちとの交流が生まれ、学生たちには大きな学びの機会となりました。	http://www.kyobi.ac.jp/subject/total_design_study.html

大学名	テーマ	事業名	活動主体	活動場所	活動目的・背景	取組概要	成果・今後の課題	関連Webサイト
42 京都文教大学	その他	地域に根ざし、地域に学び、地域の課題解決を目指す学生たちの自主的な取組	京都文教大学 地域連携学生プロジェクト	京都府宇治市/京都府京都市伏見区	文部科学省2007年度、特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)に採択された取組では、多くの学生が参加し、継続的に取組んできた教育プログラムとしての地域貢献活動が非常に高く評価されました。その取組を継続・発展させ、地域に根ざし、地域に学び、地域への貢献と大学での学びを両立させる場として、学部、学科を越え、学生たちが自主的な取組を進めています。	2016年度は、宇治や伏見区を拠点とした4プロジェクト(継続3件、新規1件)が採択され、商店街の活性化や宇治茶の魅力発信、新しいコンテンツによる宇治の観光振興、保育園児の食育などのテーマで、行政や商店街、NPOなどと連携した取組を行っています。	継続した取組を行うプロジェクトでは、開催するイベントも地域に定着してきており、子どもを中心に人気があることから、行政や関係先から継続的な開催を希望する声も毎年あがります。また、プロジェクト活動を通して学生たちは、企画力や実行力にも自信が付き、その後の就職活動などにも活かせるケースも多くあります。	https://www.kbu.ac.jp/kbu/campuslife/project.html (本学HP/キャンパスライフ/プロジェクト活動)
43 京都文教大学	教育	MJ学習会:京都市伏見区の向島ニュータウンでの小学生を対象とした学習支援	文教ストリート	京都文教マイタウン向島(京都市伏見区向島ニュータウンセンター商店街内)	近年、向島ニュータウンでは共働き世帯やひとり親世帯が増えている。児童生徒が学校から帰宅しても、保護者が不在のため、ひとりりで過ごすケースや路上で子どもたちが夕方・夜までたむろしている姿を多く見受けられている。そのような現状に対し、子どもたちの健やかな成長のため、放課後の居場所づくりが地域から求められている。	2014年4月から実施。民生児童委員と協力し、週に1回、放課後の時間に居場所づくり事業に取組んでいる。主に、大学生が子どもたちへ学習支援を行い、宿題等を子どもたち自ら取組めるようサポートをしている。その後、子どもたちとあそぶの時間を設け、交流を図っている。	当初は数人の参加者であったが、現在は約30名以上の子どもたちが参加し、非常にニーズが高いものと思われる。継続して参加する子どもが多く、家庭や小学校とは違う、サードプレイスがあることは子どもたちにとっても安心感があるように見受けられる。居場所事業は地域からは求められているが、本取組を継続できる支援が必要である。	
44 京都文教大学	教育	地域と出会い、地域に学び、地域課題を解決するプロジェクト科目(地域)	プロジェクト科目(地域)	宇治市や京都市伏見区などの京都府南部を中心とした地域	今、日本が直面している少子高齢化などの課題解決にあたっていくためには、この課題の最も近くにいる地域住民が自治体等と協力し、解決にあたっていくことが必要です。そのために、まず大学近隣等での学外授業やフィールドワークを通して地域と出会い、地域を知り、様々な地域課題の解決を行うことを目的としている授業です。またこれをきっかけに地域に貢献できる人材となれることを目指しています。	年間約10クラス程度が行政や地域に根ざした企業・団体等と連携し、地域課題を解決します。具体例として、小学生と協働で地域課題を取材し、新聞記事にまとめ、NPOなどに課題解決提案を行うクラス、地域の民生委員と協働で災害発生時に地域社会や学生ができることを提言するクラス、伏見エリア全体で観光を発展させるために伏見区の地域資源である「伏見の水」を使って新たな魅力を発信するクラスなどがあります。	PBL型の授業であるという授業の特徴と、また地域で行う活動という2つの側面を通して、「主体性」「発信力」「課題発見力」「実行力」が成長する受講生が多数です。 また、地域課題の解決、解決提案を行う中で、災害発生時に要援者をサポートする啓発カードを考案し、実際運用を検討しているなど、地域に根ざす活動であり、且つ地域を動かす活動に発展しているプロジェクト活動もあります。	http://www.kbu.ac.jp/kbu/tomoi-center/education/training.html (本学 地域協働研究教育センターHP/教育)
45 京都文教短期大学	保健・福祉・健康	メタボリックシンドローム予防メニューの考案と提供	京都文教短期大学 食物栄養学科	京都府宇治市	専門科目「生活習慣病予防の食育実習」にて、生活習慣病予防に効果的な献立作成と調理について実習を通して学んでいる。そこでこれまでの授業(実習)で獲得した知識や技術を統合し、栄養士としての実践力をより高めるため、また食生活の面から宇治市民の食育や健康増進に寄与し、地域へ貢献することを目的とするため。	平成27年3月に策定された「宇治市健康づくり・食育推進計画」の生活習慣病の発病予防と重症化予防に着眼し、「メタボリックシンドローム予防メニュー」を考案。宇治市保健推進課および株式会社典座と協働し、市役所内食堂にて市民向けに販売すると同時に、学生手作りのPOP、チラシ、ポスター等で予防啓発活動とアンケート調査を実施した。	することで、学生がこれまで学んだ栄養士課程の技術や知識を統合して、主体的に取り組むことができた。班ごとにメニュー考案をする中で、創造力、計画力、実行力、傾聴力、チームワーク等発揮し、同時に実践力や課題解決力等を総合的に身に付けることができた。	
46 京都文教短期大学	保健・福祉・健康	京都文教大学・京都文教短期大学 子育て支援室「ぶんきょうにこにこルーム」での取り組み	京都文教大学・京都文教短期大学	京都文教短期大学	子育て支援室「ぶんきょうにこにこルーム」は、これまで幼児教育や保育士・栄養士の育成を地域で展開し、すぐれた人材を輩出してきた京都文教短期大学の実績や、地域住民からの大学内に居場所をとの要望をもとに、開学50周年を記念した新学舎「月照館」内に平成22年9月に開設。地域に根ざした子育て支援と学生・教職員の教育、教育実践や実習・研修・研究を行うことを目的とした施設です。	宇治市から地域子育て支援拠点ひろは事業の委託を受けた地元の特定非営利活動法人「ましま絆の会」と協働して運営。月・火・木・金曜日は「ましま絆の会」、水曜日は短期大学が担当。子育て親のための「居場所」として、地域を中心に幅広く市民に開放。幼児教育を学ぶ学生を中心に自らの学習成果をもとにした交流・ふれあいや、教職員による研究・実践の場となっている。	地元の子育て世代の新しい居場所としての役割だけでなく、学生の学びの場、教職員の研究・実践の場としての役割を果たしており、親子同士、学生、教職員相互の新しい交流の場となっている。大学のキャンパス内で安全・安心に過ごすことができる子育て支援ひろばとして年間1万人近い利用者がある。キャンパス内で親子に話しかける学生の姿が多く見かけられるようになった。	http://www.kbu.ac.jp/kbu/nikoniko/index.html
47 京都薬科大学	教育	山科理科実験講座	学生実習支援センター	京都市山科区	小学生の理科への興味を高めるきっかけづくりのため、「理科実験講座」を地域の市民組織「山科人づくりネットワーク実行委員会」と協働して開催している。山科区内の全13小学校に案内し、毎年約120名が参加。半数以上は2回目以上の参加者と、地元でも人気のイベントとして定着している。	本学の学生実習支援センター教員が実験内容を企画し、地域の市民組織「山科人づくりネットワーク実行委員会」がボランティアで参画している。生活の中にある身近な科学を題材としており、大学の実験室という高度な設備を利用することで科学者としての雰囲気味わうことができ、家庭でも実験ができるよう実験材料を持ち帰れるようにしている。	運営スタッフ向けに事前ワークショップを開催するなど、地域の大人が子ども達の育成に積極的に関わっているよう取り組み、地域、行政、大学の協働体制が構築されている。 ・平成24～26年度「山科区きずな支援事業」認定 ・平成26年度「京都はぐくみ憲章」実践推進者表彰 ・平成27年度「きょうと地域力アップ貢献事業者」表彰	高等教育イベントナビ 教まちや > 教まちや News http://henews.consortium.or.jp/report/detail/xdxt2ir1
48 種智院大学	保健・福祉・健康	高齢者サロン・子育てサロンへの参画	社会福祉学科	伏見区向島南学区	学区社協からの協力要請により活動を開始した。地域貢献と学生への教育効果という二つの観点から活動を行っている。地域貢献については、高齢者中心で行っているサロン活動へ若い世代が参加することへの期待に応える意味合いがある。教育効果については大学における福祉の学びを実践で発揮できる場として考えている。	学区社協が行っている高齢者サロンや子育てサロンへ参加。高齢者サロンでは配膳やレクリエーションの手伝い、お茶を飲みながらの歓談を行っている。子育てサロンでは制作遊びや手遊びなどの手伝い、参加者(親と子ども)との交流を行っている。	地域貢献の観点からは、若い世代が参加することで特に高齢者サロンが活性化されたという意見が学区社協から出された。教育効果の観点からは、あまり交流することがない高齢者や子どもと関わることで自分たちの学び、特に話をするスキルを見直すことができた。また、サロンに参加している他の団体・組織との関わりもできた。	
49 成美大学・成美大学短期大学部	産業・観光	まち元気プロジェクト「AR(Augmented Reality)を利用した地域活性化・センチメンタル価値再生に向けて」	成美大学経営情報学部(専門研究Aゼミ)	京都府福知山市及びその周辺市町村の商店街	福知山市の商店街は、少子高齢化等の影響から衰退しているが、学生自身も商店街で買い物をするともなく、地域の諸問題にそれ程興味を持っていなかった。一方で、自分たちの暮らす町が元気であってほしいという思いもあった。そこで、ゼミで議論を重ねていき、地域への愛着が地域の個性を育み、その個性を保存するという「センチメンタル価値」に着目し、この価値の再生に向けて調査・企画という活動をしている。	・商店街調査(福知山市、宮津市、綾部市) 元気な店どのような商品販売しているのか、販売方法はどうか。商店街としてどのような取組みがあるのか等々。まずは学生自身で調査を実施。 ・AR(Augmented Reality)を利用したスカベンジャーハントで地域活性化の企画 「福知山市の御霊神社ゆかりの槍が盗まれ、奪い返してきてほしい!」、というゲーム上のキャラクターから依頼を受けた参加	各地の商店街調査やヒヤリングをする中で、衰退しているように見える商店街の中にも新規に開業する店舗が生まれていること。フェアトレードや地元産品にこだわった商品づくり、コミュニティ維持・強化を目指した店舗経営など地域の商店がもつ多様な側面、言い換えれば、地域の持つ意味や力を発見できた。地域活性化策は、未だ企画中であるが、今後、商店の皆さんと協力しながら実現に向けて取組を進めたい。	
50 成美大学・成美大学短期大学部	産業・観光	地域課題解決に向けた実態調査「豊岡市城崎温泉町観光資源調査を基にインバウンド対応についての調査研究」	成美大学「地域観光論&国際観光論」合同チーム	兵庫県豊岡市城崎温泉町、朝来町(竹田城)、養父市(明延弘山道) 京都府福知山市、舞鶴市、宮津市	超高齢社会を迎える日本では、地方都市に於いて人口減少、高齢化率がすすみ地域に残る素晴らしい文化や歴史伝承の担い手が乏しく、消滅の危機に瀕している。その中で、学生と共に地域の課題点を地域の方々と共に掘り起こし、持続可能な観光振興策を模索して行く。学生にとっては、見知らぬ大人へのアプローチの方法や報告書等のまとめ方、プレゼンテーション能力の向上等、社会人になる為の力を付ける方策となる。	近年急増するインバウンド観光で、東京・京都・大阪のゴールデンルート以外の地方都市でのインバウンド観光への取り組みを調査して、大学周辺の北近畿地域に適したインバウンド観光振興策を探る。2013年より、豊岡市城崎温泉町に着目して、矢島研究ゼミでの「冬の豊岡・城崎温泉+α」の旅行企画提案や、2015年度には「城崎温泉周辺観光施設調査」等を行っている。	学生たちは、クラブ活動や授業の単位取得、アルバイト等でまたたく間に4年間が過ぎて行く。若者らしい感性や機動力を活かす場所として、自然に恵まれた地域にある本校は、フィールドワークの場所には恵まれている。この環境を活かして、親や教師以外の地域住民と直接触れ合い、協働して調査・研究し、自分の頭で考え課題解決を試みることは、学生に大きな成長を促すことを実感した。	http://uv.seibi-gakuen.ac.jp/
51 成美大学・成美大学短期大学部	産業・観光	やくの道の駅「農匠の郷」との連携プロジェクト	卒業研究(4年生ゼミ)	京都府福知山市 やくの道の駅「農匠の郷」	①活動の目的 PBL(課題達成型学習)による4年生卒業研究ゼミ生への教育 ②活動の背景やニーズ 現在、利用者が少なくなっている地方の道の駅の活性化案の提案を行う。	まず、対象とする道の駅の外部環境の調査をし、次に施設の管理者へのヒアリングを行い課題の抽出を行っている。そして、ARを用いた既存MAPの改良という課題解決の提案を行い、実践を行った。	地方の小規模企業の現状の理解。 発表を通して身に付けたプレゼンテーション能力の向上。	http://uv.seibi-gakuen.ac.jp/
52 同志社大学	文化	寒梅館夏まつり	主催:同志社大学(学生支援センター) 協力:上京区役所	寒梅館	2006年度よりスタートしたこの取り組みでは、大学の地域開放を目指すとともに、小学生と大学生の「心の通い合い」を通じて、双方の成長の場になることが期待されています。	「寒梅館夏まつり」では、今出川校地寒梅館のホールやアトリウム、リーディングスペースを開放し、小学生を対象とした茶道体験や音楽演奏、鉄道模型走行など、大学生による多様なイベントを実施しています。	地域の子どもたちと交流することで、大学生と子どもたち双方の成長が見られただけではなく、地域との信頼関係の構築にも繋がりました。上京区役所とも継続して連携を深め、今後もより良い企画を目指していきます。	http://www.doshisha.ac.jp/students/s_support/extra_program/sum_fes.html
53 同志社女子大学	教育	現代こども学科 学生プロジェクト「こどバ」	現代社会学部 現代こども学科	同志社女子大学 京田辺キャンパス 京田辺市	地域の子どもたちに出会いと交流、学べる場を提供することにより、子どもたちが新しい世界を知る楽しさや自身の成長を感じてもらうために開催している。また、学生が主体となって企画・運営することにより、将来、教員や保育士、子ども産業など子どもに関連する進路を希望する学生の学びに役立て、意欲向上へとつなげる目的がある。	現代こども学科1年次生から3年次生が約1年をかけて、募集から実施まで京田辺市教育委員会や京田辺市各小学校との連携をとりながら、プロジェクトの企画・運営を行う。 2016年度実績:巨大立体迷路づくり、Cups体験 等	普段の学校生活では経験できないことを体験することで学ぶ楽しさを感じ、他校の児童や大学生との交流を通して子どもたちの成長と自信につながっている。学生にとっては、学びの成果を発揮するだけでなく、創造力やコミュニケーション力など社会人基礎力を身につける場となっている。	

	大学名	テーマ	事業名	活動主体	活動場所	活動目的・背景	取組概要	成果・今後の課題	関連Webサイト
54	同志社女子大学	保健・福祉・健康	「京田辺市子育て支援BOOK」	現代社会学部 現代こども学科	同志社女子大学 京田辺キャンパス 京田辺市	京田辺市に子育てに関する冊子がなかったことから、卒業論文の一環として「子育て支援BOOK」を作成。	胎児期から乳幼児期までの京都府京田辺市の子育て情報について、子育て中の市民や子育て支援NPO法人など様々な人の声を調査し、京田辺市健康福祉部子育て支援課と連携して作成した。京田辺市や大学のホームページ等を通して、市民に冊子を配布している。	若い親の視点に立った冊子で活用しやすく、子育てが楽しくなるなどの評価をもらっている。また、市職員と連携することで、市職員が仕事内容を見つめ直す機会となった。学生自身もNPO法人などにインタビューすることでNPO法人の新たな魅力を発掘し、社会人の仕事を間近で見ることにより、社会の仕組みを知ることができた。	http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/social/childhood/news/2015/book.html
55	同志社女子大学	保健・福祉・健康	社会システム学科「生きがい創造プロジェクト」	現代社会学部 社会システム学科	同志社女子大学 京田辺キャンパス 京田辺市	保健、医療、心理、福祉の多職種連携による地域での高齢者の心理的健康増進の啓発活動と、認知行動療法に基づくうつプログラムの実践を通して、高齢期のうつ病・認知症の発症を予防し、人生後半の豊かな生き方を支援している。	京都市や京田辺市と連携し、高齢者とその家族を対象に、高齢期の心理的健康増進の啓発活動、健康教室の開催による予防と支援を行っている。	高齢者と大学生の交流を通して、互いに人生について語り、学ぶ機会となった。また、大学生にとっては、ライフ、キャリアデザイン能力を高めることができた。	http://dwc-gensha.jp/HP_kusaka/program_08.html

大学名	テーマ	事業名	活動主体	活動場所	活動目的・背景	取組概要	成果・今後の課題	関連Webサイト
56 花園大学	産業・観光	右京区京北町の産物を活用した体にやさしい学長ハーブスイーツ創作&販売企画	HLP (Hanazono Leaders Project)	京都市右京区京北町	京北町の林業は、売行き低下、若者の減少・林業離れ過疎化と衰退が課題であり、人口を増加させるための産育育成が急務。対策として商品開発が多数行われているものの、認知度、販売力がまだまだ弱く課題となっている。学長スイーツにより大学の活性化を目指すとともに、京北町や林業に興味を持つきっかけづくりを目的としている。	学長スイーツの材料に京北産の山椒やくろもじを活用し、「体にやさしいハーブスイーツ」として、山椒みたらし団子・くろもじプリン・くろもじチーズケーキを創作し、学内カフェで販売。京北産の食材のアピールや京北町・林業に興味を持ってもらう取り組みを行いました。	一つは学生の成長です。今回学生達が主体的に京北での食材探しから企画、運営まで行い、特に社会人基礎力の中の主体性が伸びました。二つ目は広報効果です。京都新聞2回、産経新聞、KBS京都、楽天ニュースなどのネットニュース合計50媒体以上のメディアで紹介されました。三つめは、地域連携のプロジェクト型学習として独自の教育プログラムができたことです。	http://hanazono-hlp.com/
57 佛教大学	安心安全(防災・防火・災害対策、交通安全)	地域防災を考える学生サークル活動	学生消防・防災サークル「佛教大学FAST」※Fire and Safety Teamの略	京都府 京都市 北区・中京区を中心に活動	地域防災の担い手である消防団の若手団員が不足する中、将来の地域防災人材を育成することを目的に、京都府消防安全課の協力のもと結成された、学生による消防防災サークル。「京都市北消防団・楽只分団」との防火・防災パトロールや災害ボランティアセンター運営訓練への参加などの活動を行っている。	キャンパス周辺の地域防災のため、地元の楽只消防団と一緒に、京都市無火災推進日の毎月2回、防火パトロールとして地域内を巡回して「火の用心」を呼びかけている。また、毎月1回のサークルミーティングを行い活動計画について学生や大学関係者だけでなく、行政職員や地域自治会の方とも意見交換しながら議論している。	学生が地域防災の重要性や社会貢献に興味関心を持つきっかけとなったこと。大学周辺地域をベースにした、地域の方々と地道な活動によって得た経験を通じ、将来の地域防災人材となることが期待される。現在では、京都市の学生消防団員として本学学生24名が活動しており、今後の継続的な活動と更なる活躍が期待される。	http://www.bukkyo-u.ac.jp/news/index/institution/
58 佛教大学	保健・福祉・健康	紫野へいこう～一人暮らし高齢者と地域を盛り上げる!	地域福祉フィールドワーク事業(社会福祉学部学生・福祉教育開発センター)	京都市北区紫野学区	高齢化率の高い紫野学区において、一人暮らし高齢者の組織化(居場所・生きがい・繋がりづくり)をめざし、紫野学区社会福祉協議会・地域活動団体・本学の学生団体等が一体となって、一人暮らし高齢者を中心としたグループ「パープルフレンズ」を結成。高齢者の方々が地域で自分らしく暮らすための実践に取り組んでいる。	学生やパープルフレンズと一緒に作詞・作曲を行い、CDを発行、紫野まつりや他地域への歌謡演奏も行った。また、隔週で誰もが集える喫茶「カフェ紫野」を運営し、気軽に集える場づくりも行っている。「学まちコラボ事業(2014)」の最優秀賞受賞。	一人暮らし高齢者のひきこもりや孤独死といった問題が社会的に深刻化する中、この取組での「高齢者の活躍できる機会」が、高齢者の積極姿勢を生み出した。高齢者が守られる立場から、自らの「役割」を発見し地域で役立つと行動を起こす主体形成の流れと、それを地域全体で包摂していこうという試みは注目すべき点である。	
59 佛教大学	教育	絵本のひろば～親子で絵本を楽しもう～	佛教大学・二条駅がいわい子育てネットワーク・二条駅地域安全ネットワーク	佛教大学 二条キャンパス 1階エントランス 南西ロビー	二条駅周辺に居住する乳幼児とその保護者を対象に、地域のボランティアさんや学生による絵本の読み聞かせを行い、また、地域の方々がこの地域で安全・安心に暮らして頂けるように、二条駅地域安全ネットワークからの安全・安心に関連する情報を伝達しています。	「絵本ひろば～親子で絵本を楽しもう～」は、毎月第一水曜日に本学二条キャンパスにて、二条駅周辺に居住する乳幼児とその保護者を対象に、元保育士さんや学生による絵本の読み聞かせなどを行っているイベントです。	特に子育てをされている女性の方々にお越しいただき、住民同士のネットワーク作りの一助となっています。また、二条駅地域安全ネットワークからの安心・安全にかかわる情報を伝えたいただき、防犯、防災等への対策につなげ、佛教大学二条キャンパスが「妊産婦等福祉避難所」であることが地域に浸透してきています。	
60 平安女学院大学・平安女学院大学短期大学部	産業・観光	京都市交通局との地域連携活動～地下鉄駅周辺紹介FP「きゅんきゅんKYOTO」作成を中心に	国際観光学部の1・2年の学生1・2年の必修科目「ジェネリックスキル」I～IVで取り組んでいる	京都市内の市営地下鉄駅周辺にて取材活動を行う。また大学の授業において活動。	地下鉄駅周辺の地域資源・観光資源の発見・紹介を通して、公共交通の利用向上・促進につなげる。また地下鉄駅周辺の活性化に寄与する。こうした活動を通して、学生に「まちづくり」「着地型観光」「地域の持続可能性」などについて学ばせる。	2015年3月に、地下鉄利用の促進や地域活性化に関わる活動等に共に取り組んでいくという内容の協定を、京都市交通局と調印。地下鉄の駅毎に駅周辺の見どころ・お店などを学生の視点で紹介するフリーペーパー「きゅんきゅんKYOTO」を作成する。ジェネリックスキルの授業で1・2年生が取材・執筆を行い、7月に創刊号となる「丸太町駅あたり」を発行(その後、第5号までを発行。今年度中に第6号までを発行予定)。また7月22日は、京駅の地下で、学生が企画した創刊記念イベントも	・学生に、身近なところに新しい町の魅力、観光資源が潜んでいることを理解してもらうことが出来た。また、女子大生の視点で地下鉄駅周辺の見どころを紹介する取り組みが新しく、またFPの作成だけでなく配布イベントを連動して行うなどしたため、メディアでも報道されるなどの注目を集めることが出来た。 ・課題として、刊行日程がタイトで、学生の作業がたいへん。こは、工夫が必要。また観光の学びとの関係を、もう少ししっかり学生に理解させる必要があると思う。	
61 平安女学院大学・平安女学院大学短期大学部	その他	京都中央市場との包括連携協定	国際観光学部学生	京都市中央市場	この協定は、国際観光学部を中心に、京都学や茶道・華道・着付けなどの日本の伝統文化、おもてなしの知識を体系的に学び、卒業後には世界の人々をおもてなしできる女性人材を育成している本学が、「観光」と「おもてなし」を学ぶ女子大生の視点から、京の食文化の継承と創造に主体的に関わり、地元の食産業の活性化に寄与しようとするものです	「京の和食と和菓子」の授業の一環で、京都中央市場の「せり」の実地見学、健康的な食生活を普及啓発するイベント「あそぼう!まなぼう!あじわおう!『京の食育ワンダーランド!』」の企など	観光」と「おもてなし」を学ぶ女子大生の視点から、京の食文化の継承と創造に主体的に関わり、地元の食産業の活性化に寄与しようとする	
62 立命館大学	その他	サービスマーケティングセンター開講正課科目「シチズンシップ・スタディーズI」	「シチズンシップ・スタディーズI」(GA、GB、GCクラス)	(1)京都市中京区 (2)京都市中京区・左京区 (3)京都市下京区	「シチズンシップ・スタディーズI」は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目的として開講しています。	(1)まち記者による中京区の魅力発掘プロジェクト 中京区役所などと連携し、広報紙「マチビト来たる。」の編集作業等を通じて、中京区の地域課題や地域活動の大切さ、魅力を伝え、より多くの区民等の地域参加促進を目指します。 (2)時代祭応援プロジェクト 時代祭の担い手の市民組織の一つである平安講社第八社などと連携し、衣装準備や楽器演奏・隊列行進の練習運営の手伝いを行うとともに、市内の各大学で「学生目録での時代祭広報」を行い、学生に対して時代祭の魅力を発信します。 (3)ユース街づくりスタッフ「チーム街スタ」プロジェクト 公益財団法人京都市ユースサービス協会京都市下京青少年活動センターと連携し、下京地域の商店街の調査や、地域でのイベントを実施するなど、まちづくり活動に参加します。	各プロジェクトにおける取組みの学生層や地域の方への認知度向上につながることも、地域の方との関わりの中で地域課題に触れることで社会問題に対する意識が高まるなど受講生のシチズンシップの向上につながっています。	立命館大学サービスマーケティングセンターHP http://www.ritsumei.ac.jp/slc/
63 立命館大学	産業・観光	産業社会学部京北プロジェクト	景井充ゼミ、NPO法人京北コミュニティビジネス	京都市右京区京北、立命館大学衣笠キャンパス	京北プロジェクトの目的は以下の2点。(1)中山間地域型の諸課題に直面している京北地域の社会・経済的持続と自立を可能とする新たな「地場産業」を、農業分野を基盤とする地域イノベーションを通じて創造すること。(2)地域イノベーションを創造する活動を、学生が日本社会の現状と地域プロデュースを実践的に学ぶ場とすること。	(1)食の里観P:「京北マルシェ@衣笠」の開催、立命館大学・立命館大学生協との各連携による「地産地消・食育」推進活動、農業生産支援。(2)日本酒P:羽田酒造とのコラボによる100%京北産の清酒製造・販売、農商工連携の構築。(3)京北を納豆の里にP:「りつまめ納豆」(2011)「納豆もち」(2015)の企画・商品化、農商工連携の構築。	(1)上掲の諸活動によって、京北地域を大学内外にPRする媒介としての役割を果たしている。(2)食の里観Pの活動により、食材および食品の継続的供給に向けた体制作りが進んでいる。(3)衣笠キャンパスにおける地域連携活動および地域連携活動を基盤とする教育活動において、一つの先導的モデルとなっている。	http://www.ritsumei.ac.jp/ss/blog/article.html/?id=371 http://www.ritsumei.ac.jp/ss/blog/article.html/?id=387 http://www.ritsumei.ac.jp/slc/activity/column/detail.html/?id=16
64 龍谷大学・龍谷大学短期大学部	産業・観光	伏見稲荷大社周辺の観光客マナーの向上と地域の理解促進	法学部法律学科牛尾洋也ゼミ	京都市伏見区(伏見稲荷大社周辺)	伏見稲荷大社は近年、外国人観光客を中心に大変人気があり、毎年多くの観光客が訪れている。一方、その急激な人気の高まりに対して、周辺地域の住民は戸惑いも多く、観光客のマナーの向上と地域住民の理解を促すことを目的として活動している。	各種海外メディアの注目により観光地としての人気が急上昇している伏見稲荷大社周辺地域住民の理解と観光客マナーの向上を目指した活動を行っている。	国や京都市の観光政策を分析、伏見稲荷大社周辺での観光客や住民へのアンケートを行い、その結果を基に、地域住民との意見交換を行った。	作成中
65 龍谷大学・龍谷大学短期大学部	教育	深草地区の子どもたちへの学習支援プロジェクト「京町家学習会」	文学部哲学科教育学専攻林美輝ゼミ	京都市伏見区深草地区	本プロジェクトは、(公財)京都市ユースサービス協会、深草福祉事務所との連携の下で、本学文学部哲学科教育学専攻の学生が地域の子どもたちに対して、無償で勉強を教えるものです。家庭の事情による教育格差を断ち切ることで、子供たちの明るい未来に繋げることを目的として活動しています。	教育学専攻の学生が、主に高校進学を目指す中学3年生を対象に深草町家キャンパスにて学習の支援活動を定期的(毎週火曜日)に行っています。単に勉強のサポートだけではなく、一緒に料理をする等、人々との交流イベントを通じて、人間的な成長支援も行っています。	今年度からの活動のため具体的な成果はこれからであるが、子供たちの将来の夢を育むと共に、学習意欲向上を見込んでいる。また教育の現場を経験することで、学生の専門性の向上も期待できます。	作成中
66 龍谷大学・龍谷大学短期大学部	産業・観光	スポーツ×伝統産業による地域活性化	経営学部スポーツサイエンスコース松永敬子ゼミ	京都市、東日本大震災被災地	京都マラソンで京都の伝統産業(工芸品)を身に付けて走ってもらうことで京都伝統産業を全国にPRすることで、京都の伝統産業を見直しもらう。またその売上げを寄付金とするのではなく、ゼミで行う東日本大震災復興支援活動の原資として活用する。	京都念珠製造販売事業協同組合と連携し、地域の子ども達と京念珠ブレスレットを製作。それを京都マラソン会場にて販売し、ランナーに身に付けて走ってもらうことにより京都の伝統産業をPRする。またその売上げをゼミ生が行う東日本大震災復興支援活動資金として活用している。	全国規模の市民スポーツイベントで伝統産業をPRすることで「本物」の良さを知ってもらうことができた。スポーツを通じた地域貢献を専門とするゼミ生の専門性を高めると共に、東日本大震災の被害を風化させない意識を植え付けることができた。	作成中